

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月5日

事業所名 子ども発達支援センター さつき園

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	<ul style="list-style-type: none"> ・広さは大丈夫だが子どもたちの活動や生活動線に関しては使いにくさが大きい面がある。また安全面が不十分。 ・1グループ部屋が足りないのので1つの部屋を曜日違いで使用している。 ・子ども主体にあった環境整備不足 	
	2 職員の配置数は適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> ・最大9名のクラスにも必ずスタッフ3名体制で行っていて状況に応じてスタッフ体制の変更をしながら行っている。 	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの棚にマークをつけて目印をつけ見つけやすく判断しやすいよう配慮している。周囲からの情報を入れすぎないようにドアはミラーガラスになっている。 ・子ども用のトイレがない。 ・床がカーベットの為、トイレトレーニングや嘔吐等、衛生面の対応が心配。 ・子ども用のトイレがない。 ・建物がもとも保健センターであるため療育で使用するにあたって工夫はしているが限界もあり活動の中で難しさを感じるところもある。(トイレの高さが合わないため段をつけている) ・医療的ケアが必要な子どももいるため看護師・PT・OT・STの方が職場にいてくださると助かります。 ・トイレが保健センターそのままで使用されているので大人用トイレに子供用便座を置き足元には牛乳パックで作った足置きを置いている。 ・1ヶ所は障害者トイレそのままになっており物置きなので臭いが気になるので撤去してほしい。 ・バリアフリー化の構造化不足 	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている		○	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの便座の所が大人用になっているため子ども達にとっては使いづらいと感じる場合がある。 ・園庭がない。駐車場は広いがアスファルトのため怪我が多い。 ・子ども達も使えるように工夫しているが不便さもある。 ・子ども用トイレなし。 ・園庭なし ・プレイルーム、廊下、じゅうたんが敷いてあり冬は暖かいが夏は衛生面が気になる。掃除機はかけているが... ・子ども主体にあった空間や建物の老朽化 	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・実践をしていく中でスタッフとの間で反省点を挙げそれをもとに改善をし、次の実践をより良いものにしていくことを心がけている。 	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・行事後に保護者に記入していただくアンケートをもとにスタッフ内で共有をいき、いちら提案として活動に取り入れていくように配慮している。 	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・指宿市のホームページで掲載 	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の方と保護者を含、面談を行った際に現状を伝えながら今後の動きにつなげられるようにしている。 	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍も少しずつ過ぎていることで研修も増え指導員同士でのグループディスカッションだったり1日研修などの機会が最近ではある。 	
10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から子ども達の家での様子を保護者とスタッフ同士で共有し一緒になって関わり方を考えていく上で支援計画を立てている。 		
11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの特性を理解したうえで関わりが重要となってくるため定期的に確認しスタッフ間で共有することを心がけている。 		

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・子ども達の特性にあった支援計画を立てており、一人ひとりに合った支援や援助を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・活動内容は朝礼でスタッフ全体で確認をしてから活動へと移るようにしているためチームで行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・四季が感じられるように月ごとの行事に関連づけながら活動の内容は変更していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		・初めのうちは慣れるためにも個別であることもあるが少しずつ雰囲気を感じて遊びへと向かえるよう集団活動につなげるようにスタッフが声をとばしている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・自分だけのグループだけでなく全体で活動内容を把握しておき状況によって臨機応変に動けるように配慮している。 ・できる限りで共有し合えるようにしている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・今日の活動内容をスタッフ内で話し意見を伝え合いながら「なぜそうなのか」「どうすればいいのか」を考え改善することを心がけている。 ・決まって打合せをすることは、あまり無いがその日の出来事や反省、課題について話をすることはある。 ・全てではないが、気になったことなど伝えるようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・記録は毎日とり、子ども達の1日1日の成長していく姿を残していけるようにしている。本当に些細なことでも記録に残す。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・公開療育、運動会などではビデオで撮ったものをスタッフで見返し意見交換をしつつ色々な考え意見を取り入れながら改善していく。
	関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	
22		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・関係機関の方と連携を取り合いながら見学や入園の話を進めていくように必ずしていく。 ・もつとあっても良いと思う。
23		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・医療関係者との連携がもつと図れたらと思う。
24		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		
25		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・年に2回程度 並行通園先と担当者会議を行い 貴園での様子と並行通園先での姿を共有し理解したうえで支援を行っている。
26		移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		
27		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・他の専門機関との間でボランティアや研修を通して助言を受け情報共有や相互理解を図っている。
28		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		・以前も子ども達が作った新米を配りに行き、並行通園先の子ども達とも関わりをもつと同時に貴園をお礼をしてくださるということで訪れてくれたこともあった。

	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子 ども・子育て会議等へ積極的に参加してい る	○		・親の会などへはスタッフも状況に応じて は対応することもある。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達状況や課題について共 通理解を持っている	○		・療育の最終日(週終わり)には保護者 に向けてスタッフが今週した活動内容を写 真を見せながら様子を伝えていく機会が ある。 ・迎えの際に子どもの姿について伝える ようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対して家族支援プログラム(ペアレン ト・トレーニング等)の支援を行っている	○			
保護者への 説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説 明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支 援の提供すべき支援」のねらい及び支援内 容と、これに基づき作成された「児童発達 支援計画」を示しながら支援内容の説明を 行い、保護者から児童発達支援計画の同 意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等 に対する相談に適切に応じ、必要な助言 と支援を行っている	○		・1年間のうちに3回程度、保護者とス タッフの間で面談を行い家での様子、園 での様子を共有する場がある。 ・日々の送迎時はもちろん、年3回の 個別面談や担当者会議等で保護者の相談 に対応する。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会 等を開催する等により、保護者同士の連 携を支援している	○		・ママ' DAY、パパ' DAYがありそ こで保護者同士の関わりがもてるよう 行事を行っている。 ・親子活動時の交流、親の会での学 習会実施等で保護者同士が交流をもち やすい場面を作っている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れに ついて、対応の体制を整備するとともに、 子どもや保護者に周知し、相談や申入れ があった場合に迅速かつ適切に対応してい る	○		・登園、降園の時間帯だったり合間の 時間でスタッフが親身になって相談に 対応するように心がけている。 ・知識的にも浅いため相談等は先輩 方に対応してもらうことが多い。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や 行事予定、連絡体制等の情報を子ども や保護者に対して発信している	○		・園だよりを通して月の行事予定だ ったり前の月の活動を保護者の方へ 伝えていく。 ・園だよりを作成し配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・個人情報の書かれた紙、専用の ゴミ箱を使用している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意 思の疎通や情報伝達のための配慮を している	○		・言い回しや伝え方は意識するよ うにしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する 等地域に開かれた事業運営を図ってい る	○		・年に2回ほど、避難訓練を行い、 いざ火事、災害が起こってしまった 時にそなえて訓練を行っている。 ・コロナ禍で近年は出来ていない が地域交流は進めている。 ・コロナ禍以降難しくなっている。	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニ ュアル、感染症対応マニュアル等を策 定し、職員や保護者に周知するととも に、発生を想定した訓練を実施してい る	○		・地震、火災といろいろなパター ンで行っている。 ・どの立場でも対応できるように 訓練している。	
非常時 等の 対応	42	非常災害の発生に備え、定期的 に避難、救出その他必要な訓練を 行っている	○		・避難訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんか ん発作等のこどもの状況を確認してい る	○		・子どもの状況などを具体的に記 入する。	
	44	食物アレルギーのある子どもに ついて、医師の指示書に基づく対応 がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事 業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研 修機会を確保する等、適切な対応を している	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身 体拘束を行うかについて、組織的に 決定し、子どもや保護者に事前に十分 に説明し了解を得た上で、児童発達 支援計画に記載している	○			